

院長のひとりごと2

テーマ「松原正樹氏逝く」

私の大好きなギタリスト松原正樹さんが二月八日に十二指腸癌で亡くなられました。今回のテーマは私の勝手な趣味の世界ですので適当に読んでください。ご本人のご希望で家族葬を行われたそうです。私も正樹さんの死を受け入れられずおりましたが、来月の終わりにお別れの会を行うとの連絡があり、やっと現実のものと考えることができました。

昨年発症され、その状態で十月二十五日から二十八日もの間、私のアルバムのレコーディングのために貴重な時間を作っていたいただきました。実際には十月に入り、メンバーを那須のスタジオに呼んでベーシクトラックを作成していただき、その上に私のギターをかぶせるという作業です。連日約四時間の工程でした。

松原正樹というギタリストの存在に気付いたのは流宇夢サンド(1978)を「渋谷ヤマハの民謡コーナーに置かれたジャケット(正樹さん談)」の1st LPを狛江のレコード屋で見つけて買ったことに始まります。同時期に南佳孝/SPEAK LOW(1978)、松原みき/真夜中のドア Stay with me(1979)松任谷由実/恋人がサンタクロース(1980)、カンナ8号線、真珠のピアス(1982)、等等。小倉でも弾いてくれたよね、感謝。

Parachuteの最初の野音Liveは都合が悪く残念、翌年の2ND発売Liveは新宿LOFTで聞けました。これが初「生」でした。今考えれば、あの音響でもあんな素敵なお音が出るものだと感心します。時は経て、春名正治さん率いるバルナハントのLiveを十年ほど前に高円寺Jirokichiに聞きに行き、それからまーちゃんと友達関係が始まります。今は亡きDolphinさんともそこで出会っております。いつか小倉でもLiveやってよと言っておりましたが、それが平成二十五年六月二日北九州ソレイユホールに二千二百名のお客さんを集めて当院の十周年記念コンサートへとつながります。昨年三月に原宿リハビリテーション病院の開院式典でもまーちゃん、昌江さんに弾いていただきました。林芳正大臣も昔からのファンでしたと演奏が終わって走ってこられたのが印象的でした。

二〇〇九年、ツアーの打ち上げで怪我をされ、当院ですぐに手術をしてリハビリを行い、一週間後には山本潤子さんのレコーディングに参加するという離れ業を演じています。これも大変思い出に残る良いCDです。私はへたくそながら四枚のCDを作っており、まーちゃんから「今度俺が作ってやるからいい音になるよ」と四年ほど前から言われていました。それが昨年のレコーディングへとつながりました。さすがに日本のトッププロの音はめっちゃくちゃ凄いです。先日も、ブルースギタリストの菊田俊介さんから音が凄く良いと褒められ、さらに本当に自分で弾いてるのかとも。録音のあとミックスダウンをして頂き、十二月二日に原版が届き十二月二十日にはCDを発売でき、まーちゃんも喜んで聞いてくれたことと信じます。

天国でも素敵にギター弾いてね。
ありがとう、さようなら。

感謝を込めて。

平成二十八年二月二十六日 藤井 茂

第十三章

